

町長 行政報告



池田町長

平成25年度は、計画をしていた各事務事業を執行することができた。一般会計及び各特別会計の出納を5月末日で閉鎖をし、決算見込みはそれぞれ黒字である。

災害時に関する協定

大規模な災害等が発生した場合、ライフラインの途絶や公共施設の損壊等から行政の災害対応能力が著しく低下することが予想される。災害時における円滑な応急対策活動を行うため、以下の協定を各団体と結んだ。

3月20日、町内5ヶ所の給油所と「災害時における燃料等の緊急供給に関する協定」。津野町商工会と「災害時における生活関連物資供給等に関する協定」。

4月16日、四国電力と「災害時の協力に関する協定」。5月8日、建設業者17社からなる津野町防災協議会と「災害時等における応急対策活動に関する協定」。

平常時から関係機関との連携を確認・強化し、災害時の迅速かつ円滑な応急対策活動の実施に努める。

自主防災組織の充実

4月14日から5月16日まで町内を22ブロックに分け、行政と社会福祉協議会が出向き、自主防災活動の説明と役割について意見交換をした。

大規模災害が発生すると公助としての消防機関や行政の対応にも限界があり、自助・共助の大切さを念頭に「自分の命は自分で守る」という意識と、自主防災組織の必要性を理解して地域

での防災・減災活動に共に取り組んでいく。

観光開きと連休中の入込客

3月29日に道の駅「布施ヶ坂」で観光開きを行った。当日は小雨で直販部のレジカウントは486人と昨年の半数であった。客層は県外が約30%で、その7割が愛媛県からの入込客と推測をしている。

連休中は日並びが悪かったこともあり、県下の主な施設の入込客は前年の14%減。本町でも風車の駅、道の駅布施ヶ坂の利用客は対前年比15%減の1万4千人、天狗荘の宿泊者は7%減の611人で広島県・兵庫県・大阪府などの中国・関西方面が多い。引き続き中四国・関西向けのPRを強化し誘客を図る。

天狗荘の運営状況

観光シーズン中、好天に恵まれたことや中四国向け観光PRの効果で、事業活動収入は1億1千900万円、対前年比10%増。収支は昨

年度の赤字決算から改善、67万円の黒字となっている。しかし11月以降の冬季は依然厳しい状況である。

1月から県緊急雇用基金事業を導入し、観光拠点サービス向上と地元食材メニューの開発に取り組んでいる。県観光部局や県立公園主管課の協力を得ながら観光資源の複合的な活用に向けた対策を講じていく。

(有)ふるさとセンターの運営状況

道の駅布施ヶ坂を統合して2年が経過した。総売り上げは2億1千万円で対前年比1%減となったが、職員の補充をしなかったことや高利益率の食堂部門の売り上げ増により当期純利益は100万円の黒字となった。

満天の星は対前年比4%減、十津店は3%減、瀬戸店は昨年9月より野菜の販売を再開したことで70%まで回復している。

町内の販売所は県外への観光PRの効果もあり、風車の駅は22%増、道の駅は

2%増、全体の売上額は1億3千800万円と昨年並み。

協働の森づくり

大手旅行会社クラブツーリズム(株)とは平成24年に協定を結び、天狗高原周辺の森林整備を行いながら津野町へのツアーを計画、全国から多くの観光客を誘致してきた。3年の期間が満了した3月31日、全国のホテル等の旅行関係者で組織しているクラブツーリズムパートナーズ会を協定者に迎え、高知県を含めた4者で5年間の協定を締結した。協賛金300万円を活用し、町有林の間伐、広葉樹の植栽・遊歩道等の森林整備を行う。1期目は天狗高原を主体に40回のツアーを企画、観光交流に寄与いただき地域活性化に繋げていく。

道路整備等の要望活動

5月12日、道路整備促進期成同盟総会県大会は知事・県選出国會議員・県議等の出席で「四国8の字ネットワークの整備促進」地域住